

みなさんの一番身近で、よく目にする仏さまとは、どんな仏さまですか？

まず思い浮かぶのは、お地蔵さまではないでしょうか。

道端^{みちばた}で風雨^{ふうう}にさらされながらも、いつも私たちの一番身近な所で見守っていてくださる。そんなお地蔵さまが、思い出されます。

道端といっても、今ではビルなどの建物のあいだにお地蔵さまが祀^{まつ}られていることが、都会では珍しくない光景^{こうけい}となっています。

今はビルに囲まれ、たたずんでいるお地蔵さまですが、きっと古い昔からその同じ場所にずっといらっしゃったのでしょう。その場所も、昔は田んぼのあぜ道で、道行く人たちが、通りすがりに手を合わせて通った場所だったのかもしれない。

その同じ場所で永い永い時間、静かに多くの人々の信仰を集めてきたのです。

お地蔵さまを見るとき、悠久^{ゆうきゆう}の時間を感じると同時に、お地蔵さまに対する私たち人間の深い信仰^{かいま}を垣間見ることができます。

お地蔵さまが出てくる、時代劇のワンシーン。みなさんもよくご存知かもしれません。

村人^{むらびと}がお地蔵さまにおむすびをお供えして、手を合わせて去っていきます。そのすぐあとに、おなかを空かせた浪人^{ろうにん}が、そのおむすびをお地蔵さまに手を合わせ、失敬^{しっけい}して食べてしまいます。

人の世をよくあらわした時代劇のワンシーンであり、お地蔵さまという仏さまを良く表現している場面です。

お地蔵さまは、私たちの本当の姿、本性^{ほんしょう}というべき、心の奥底まで良く知っています。その上で、私たちを一番身近なところで見守ってくださるのです。

お地蔵さまについて説かれた「地蔵菩薩本願経^{じぞうぼさつほんがんきょう}」というお経があります。

その中に「お地蔵さまのお名前をお唱えしただけで、お地蔵さまは私たちを救ってくださる」と説かれています。

道端でお地蔵さまに出会ったら、お地蔵様にお手を合わせて「南無地蔵菩薩^{なむじぞうぼさつ}、南無地蔵菩薩」とお唱えしてみてください。

きっと、お地蔵さまが、そっとあなたに寄り添ってくださることでしょ。